

令和5年度

広島大学大学院先進理工系科学研究科 数学教室談話会

令和5年9月27日(水) 午後1時
広島大学理学部B棟7階B707教室

中川勝國 氏 (一関工業高等専門学校)

題目：力学系の転送作用素のコンパクト性について

力学系に付随する転送作用素のスペクトルギャップは、CLTなどの極限定理の導出に重要な役割を果たす。他方、このスペクトルギャップから、ある自然な位相ベクトル空間を導入すると、その空間上での転送作用素のスペクトルが、コンパクト作用素のそれと類似した構造を持つ (i.e. 非零スペクトルがすべて多重度有限の離散固有値である) ことが起こり得る。そこで、この空間において転送作用素は実際にコンパクトであるか？また、コンパクトでなければ、ある Banach 空間を構成して、転送作用素がその上でコンパクト作用素になり、かつスペクトル構造がもとの空間上でのそれと一致するようにできるかと問うのは自然な問題である。本講演では、この問題に関する、講演者のものを含む結果を紹介する。

問合せ先:

広島大学大学院先進理工系科学研究科 数学教室談話会係
〒739-8526 東広島市鏡山 1-3-1

電話: 082-424-7356 (木村俊一)

email: shunkimura@mac.com

最新の教室情報はホームページをご覧ください。

<http://www.math.sci.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html>

※ この談話会は「理工学融合共同演習」の単位認定要件である「共同セミナー」として提供されます。